

KDS NEWS

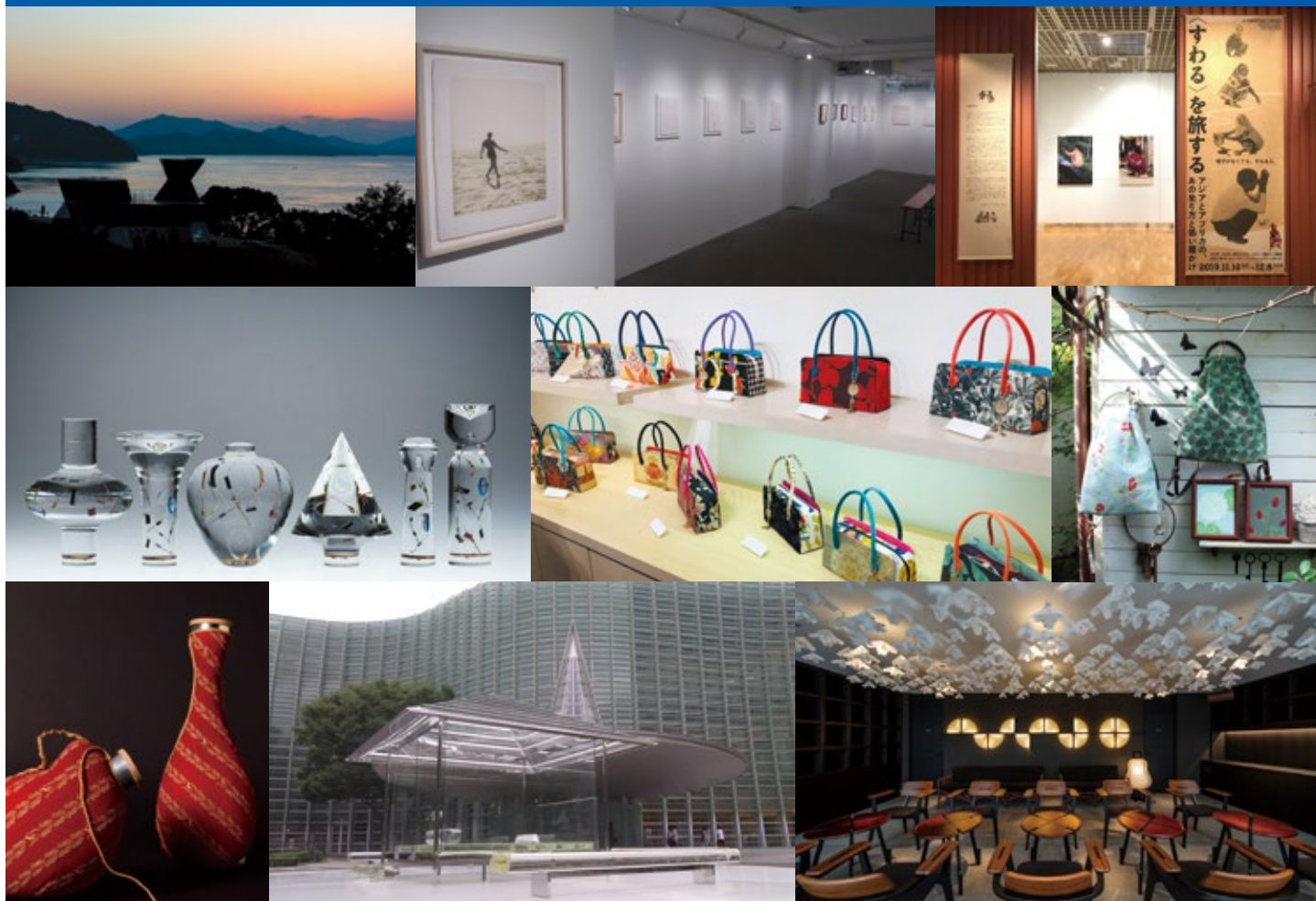
dosokai

2020 no.187



第27回 桑沢賞表彰式 報告

第60回 定期総会 第28回 桑沢賞表彰式&記念パーティーは
新型コロナウイルス感染防止のため中止となりました。



桑沢デザイン研究所同窓生の皆さまへ

既に同窓会ウェブサイトでお知らせしたとおり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況をふまえ、5月に開催を予定しておりました「第60回定期総会」ならびに「第28回桑沢賞表彰式&記念パーティー」は中止の運びとなりました。毎年ご参加を楽しみにされていた皆さまには大変申し訳ございません。

「定期総会」での報告事項（活動報告・会計報告等）につきましては、下記に掲載しておりますのでご覧ください。

「2020年桑沢賞」各賞につきましては、選定の機会（新人賞：卒業生作品展、桑沢賞本賞・その他の賞：各選考委員会）が相次いで中止になり、受賞者の選定が難しい状況となりました。時期をあらためて、選考の機会を設けたいと思います。

未だにウィルス感染拡大の収束時期が見えず、例年通りの活動ができるかどうかかわからないなか、同窓会としては今年度、ウェブサイトやSNS等、ネットを活用した情報発信に力を入れ、一層活発に行っていきたいと考えています。ぜひ、皆さんからの情報をお待ちしています。

また、状況が許せば、夏期講座やチャリティーフリーマーケット等を企画し、できる限り皆さんとの交流の場を作っていきたいと思っています。



2020年5月1日
桑沢デザイン研究所同窓会
会長 八十島博明

2019年度 桑沢デザイン研究所同窓会 活動報告・会計報告(速報)

■2019年度 活動報告

- 4月30日(火) 同窓会ニュース186号発行
- 5月18日(土) 同窓会支部合同会議開催(於: 渋谷東武ホテル)
第59回同窓会定期総会および第27回桑沢賞表彰式開催
(於: 原宿クエストホール)
- 6月8日(土) 桑沢賞表彰式に協力の学生さんとの慰労会開催
- 8月13日(火)～23日(金) 第28回 夏期デザイン講座、
夏期特別講座開催(於: 桑沢校舎)
- 10月12日(土)～14日(月・祝) 桑沢祭2019へ協賛

2020年

- 2月28日(金)～3月1日(日) 卒業生作品展「桑沢2020」に協賛
(開催中止)

●

- 理事・委員会 7回
- 夏期デザイン講座実行委員会 2回
- 桑沢賞実行委員会 3回
- 同窓会ウェブサイト・SNS更新 随時
- 桑沢自治会桑沢祭に協賛
- 卒業アルバム制作に協賛

■2019年度 収支・決算(単位: 円)

収入の部	科目	2020年度予算	2019年度予算	2019年度会計	増減
1.	前期繰越金	1,798,241	△21,786	△21,786	0
収入の部	財産繰入	417,480	849,525	849,525	0
	終身会費	10,740,000	10,560,000	10,560,000	0
	受取利息	40	40	42	2
	事務受託費	1,600,000	1,800,000	2,700,000	900,000
	雑収入	10,000	50,000	0	△50,000
	合計	14,565,761	13,237,779	14,087,781	850,002
2.	夏期講座収入	3,300,000	3,300,000	4,294,740	994,740
事業収入	桑沢デザイン塾収入	50,000	320,000	268,970	△51,030
	受取利息	10	20	30	10
	合計	3,350,010	3,620,020	4,563,740	943,720
3.	寄付金繰入	4,500,000	4,600,000	4,600,000	0
桑沢賞収入	受取利息	10	10	12	2
	合計	4,500,010	4,600,010	46,00,012	2

支出の部	科目	2020年度予算	2019年度予算	2019年度会計	増減
1.	広報費	1,900,000	1,750,000	1,737,590	△12,410
支出の部	ホームページ運営費	400,000	300,000	208,280	△91,720
	通信費	130,000	120,000	112,627	△7,373
	会議費	200,000	150,000	111,500	△88,500
	企画費	400,000	250,000	0	△250,000
	事務費	3,150,000	3,150,000	3,104,320	△45,680
	事務用品費	250,000	400,000	394,034	△5,966
	総会費	1,000,000	1,100,000	1,077,638	△22,362
	他団体交際費	1,000,000	900,000	871,986	△128,014
	支部費	200,000	250,000	11,597	△238,403
	リース料その他	130,000	120,000	117,720	△2,280
	雑費	30,000	30,000	26,048	△3,952
	桑沢賞寄付金	4,500,000	4,500,000	4,500,000	0
	予備費	200,000	150,000	16,200	△183,800
	基本財産繰入	1,000,000	0	0	0
	次期繰越金	75,761	67,779	1,798,241	1,730,462
	合計	14,565,761	13,237,779	14,087,781	850,002
2.	夏期講座経費	1,700,000	1,650,000	1,635,747	△14,253
事業支出	桑沢デザイン塾経費	25,000	160,000	169,166	9,166
	事務委託費	1,600,000	1,800,000	2,700,000	900,000
	財産繰入	25,010	10,020	58,827	48,807
	合計	3,350,010	362,0020	4,563,740	943,720
3.	諸経費	4,500,000	4,600,000	4,241,359	△358,641
桑沢賞支出	財産繰入	10	10	358,653	358,643
	合計	4,500,010	4,600,010	4,600,012	2

桑沢デザイン研究所の所長が交代されました



浅葉克己さん
ありがとう
ございました！



工藤強勝さん
所長就任
おめでとう
ございます！

日本を代表するアートディレクターとして、長年グラフィックデザイン界の第一線で活躍されている浅葉克己さんは、2011年10月から2020年3月まで、約9年にわたり第10代所長を務められました。

所長就任中は、国際的に注目を集める浅葉さんご自身が当研究所のイメージリーダーとなって各方面で活躍され、多くの斬新な企画を推進されました。

また、当研究所の建学に大きな影響を与えたバウハウスとの親交を深めるため、2015年よりバウハウス・ツアーを実施。2019年にはバウハウス100周年公式イベントへ選抜学生を参加させるなど、バウハウスとの関係強化にご尽力されました。

自ら担当するゼミでは常にユニークなテーマを投げかけ、教育者として多くの優秀なデザイナーを世に送り出しました。人気の「浅葉ゼミ」は今後も続きます。

浅葉さん、所長おつかれさまでした！そしてこれからも桑沢デザイン研究所をよろしくお願いいたします！

2020年4月、エディトリアルを中心に活躍されているグラフィックデザイナーの工藤強勝さんが、第11代所長に就任されました。

工藤さんは1948年岩手県生まれ。日本電信電話公社（現NTT）のエンジニアとして4年間勤務したのち、桑沢デザイン研究所でデザインを学び、76年デザイン実験室を設立。以後グラフィックデザインと大学教育の分野で活動。またグラフィックデザイン、タイポグラフィ、ブックデザインの指南書を著し、後進の育成にも熱心に取り組んでおられます。

武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科講師を経て2006年より首都大学東京システムデザイン学部・大学院教授、～14年客員教授。日本タイポグラフィ協会の理事長、専務理事を歴任。『デザイン解体新書』など著書多数。「第7回桑沢賞」、講談社出版文化賞「ブックデザイン賞」など受賞歴多数。

デザインと教育の分野での幅広い知見を活かして、桑沢デザイン研究所の未来を切り拓いていただけることでしょう。

■同窓会役員一覧 ★=新任

会長 八十島博明

副会長 田辺千晶 森井久寿生

理事（会長・副会長を含む）

赤羽なつみ 稲村彰保 田代 卓

田辺千晶 野口英明 細山 歩

本田理恵 馬原雲母 森井久寿生

森井由佳 八十島博明 簀内雄美

山越史洋 横森美奈子

監事 大豆生田 守 大槻高康

特別委員 近藤信一 中西元男 薬師神親彦 山田脩二

委員 新目 恵 石坂昌也 ★小川航司

尾形優子（北海道支部長） 片岡 治（関西支部長）

日下部昌子 ★後藤和樹 雑賀吉人 澤田昂之介

千葉有卯助 勝呂洋介 滝口未来 高橋祐子

富野隆平 中村哲夫 中村遼一

野田博生（九州支部長） 畑 秀樹 林 皇貴

平林天明 三上 司 宮澤太地

宮畑周平（中・四国支部長） 矢島裕丈

矢内原充志 由良万紀子

吉田 仁

名誉会長 工藤強勝（研究所所長）

顧問 浅葉克己（元所長）

市瀬 昌昭（元所長）

原 美夫（元同窓会副会長）

相談役 遠藤 毅（研究所事務部長）

事務局 伊草喜久江

2021年度 専門学校桑沢デザイン研究所 推薦入学（同窓会推薦）募集のお知らせ

昨年度に引き続き、今年度も専門学校桑沢デザイン研究所より、同窓会に推薦入学募集の要請がありました。

つきましては、「自分の子供、孫を是非、桑沢に入学させたい」と希望される方は、9月末までに同窓会事務局にご連絡ください。推薦入学関係書類をお送りいたします。

●募集人員：若干名（総合デザイン科・昼間部／デザイン専攻科・夜間部）

夏期デザイン講座 2019レポート

毎年ご好評をいただいている夏期デザイン講座は、2019年の夏も、アンケートでは受講者の皆さんからほぼ満点の評価をいただき、スタッフ一同大喜びのうちに幕を閉じました。

とはいえ、毎年新しい課題がつきつけられ、安定を許されないこの夏期講座。今回も特徴的なことがございました。

夏期講座には、基本的には桑沢や、美大に入りたいと思っている（または興味がある）人たちが参加されます。なかには想定を越えた初心者もおられ、時として手軽に「正解」を持って帰りたいという欲求を、我々講師やスタッフにぶつけてまいります。わからないことがあれば貪欲に講師を質問攻めにすれば良いと思いますが、どうすればいいかご自分で制御できず、その場で取り乱す生徒さんが、今回は何人いらっしゃいました。

余程の才能の持ち主を除き、鉛筆を削ったことのない人が夏期講



座5日間でデッサンが描けるようにはなりません。できなくて当たり前なのです。が、取り乱してしまおう。

この、弾の飛びかう最前線に丸腰でボンヤリとやってくるような困った生徒さんの出現は、「夢は叶う」「夢はあきらめるな」といった、昨今メディア等から流れ出る闇雲なエールが少なからず起因しているのではないかと思います。夢を追いかけるには「覚悟をしろ」。……次のチラシに、このコピーを入れようかしら（笑）。

もちろん、生徒さんが変われば、私達も変化します。『最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である。』— ダーウィン — 浅葉前所長がよく引用しておられました。

全力でサポートをさせていただきました結果が、アンケート結果としてそれを表しているものと信じております。

記：もりいくすお（同窓会理事=1部60L2A）

2020年度「夏期デザイン講座」開催のお知らせ



毎年、ご好評をいただいております同窓会主催の「夏期デザイン講座」は、昨年に引き続き、幅広くデザインに触れていただくようさらに内容を充実して、開催を予定しています。みなさんのお知り合いで桑沢受験をめざす方や、デザインに興味のある方、これからデザインを学び直したいという方がおられましたら、ぜひこの講座をお薦めくださいますようご協力をお願いいたします。

「伝わるイラストと読みやすい文字」は、見てすぐ伝わるイラストを描いて、読みやすい文字を添えてみたい。桑沢を目指す方にも、仕事や生活に生かしたい方にも役に立つ、テクニックとコツを学ぶ1日講座です。

■日程=未定・決定次第同窓会ウェブサイトにて公開

日中・夜間／各5日間の他、「伝わるイラストと読みやすい文字」も予定しています。

■内容=日中コースはこれまで同様、色彩構成、デッサンの講座を実施します。

夜間コースはデッサン、造形の基礎の予定です。

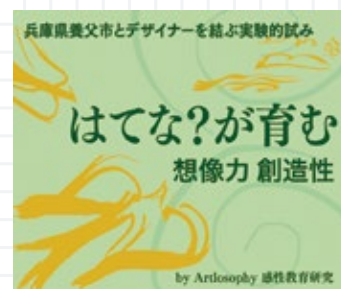
夏期特別講座も企画しています。

特別講座 デザインには何故、哲学が必要なのか(2日間)

講師 齋藤セシリアかおる 東京造形大卒 Artlosophy Founder

人口、持続可能～循環経済等、養父市が直面する課題より：哲学思考でデザインを生み出す、実践的レクチャー & ワークショップ。

企画主管者/Supprot Facilitator



●詳細は決定次第同窓会ウェブサイトにてご案内しますのでご確認ください。または同窓会事務局までお問い合わせください。

・TEL. 03-3462-4029 ・FAX. 03-3462-4090

桑沢祭2019報告

この度は桑沢祭2019へのご支援、ご協力有り難うございました。今回は台風の影響もあり開催期間が1日と半分になってしまいましたが無事に終えることが出来ました。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

桑沢祭2019のテーマは100周年を迎える「BAUHAUS」でした。今回は活動開始から異例で、テーマが先に決まっており後から中身を詰めていくというものでした。また今回から新しく「桑マート部署」が加わり全8部署の活動となりました。前例のない活動に最初はつまづきましたが、たくさんの方にご協力いただき「桑沢生の考えるバウハウスを伝える」というものに方針が決定しました。

運営統括本部では、ワークショップと体験型企画を行いました。ワークショップではたくさんの方に体験していただき予定時間よりも早めの終了となりました。体験型企画では広報の仕方に改善の余地がありました。前回に引き続きスタンプラリーを実施し、ノベルティとして浅葉克己前所長にデザインをしていただいたカードを配りました。



イベント部署では、マスコットキャラクター「ばうにゃん」の練り歩き、バウハウスのフォトスペース、擬音を触ることができる「さわさわみるみる展」を行いました。どの企画も多くのお客様に楽しんでいただけたと思います。また桑マート部署は、前回よりも多くの学生が参加しており大変盛り上がっておりました。

お土産部署では「Pountu (ポウンツ)」という名前でもオリジナルデザインのハンカチを制作しました。バウハウスらしいモダンパターンと日本風の市松模様を組み合わせたデザインになっています。

飲食部署では「バウバウ」という食堂でドイツ関連の料理を提供しました。今回は料理だけでなく空間装飾にも力を入れました。グランプリ部署は今回も8階で「桑沢グランプリ」を開催しました。今回は「エレメント」というテーマで昨年よりも多くの学生が出品をしました。

ファッションショーは今回も大盛況でした。ファッションショー部署では企画の段階から照明を中心にアドバイスをいただきより良いものが完成しました。また2Lの写真ファイルの製作も行いました。

空間部署は各階の装飾を行いました。点・線・面と素材を意識したモチーフを製作し、校内に施しました。

今回は来場者向けアンケートの実施、台風の影響によって中止になってしまった10月12日(土)には桑沢祭公式ツイッターでの「ばうにゃん視察隊」の企画など初めての事にチャレンジしました。開催期間が減ったものの1日半で1,326人のお客様に来場していただきました。

さて2020年度の桑沢祭についてですが、2019年度を超えられるような桑沢祭になるように動き始めております。今年度も何卒お力添えいただければ幸いです。ご協力いただき本当にありがとうございました。

記：桑沢祭2019実行委員会委員長 小島彩花



第6回 チャリティフリーマーケット開催のお知らせ

桑沢祭の3日間、桑沢同窓生の出品によるフリーマーケットを開催する予定です。
今回は**書籍**を中心として寄付をお願いします！



- 日時 = 2020年10月(予定)
- 場所 = 桑沢校舎 3F会場(予定)

東日本大震災被災地への長期的支援、および在校生と卒業生の交流の場として、同窓会主催によるチャリティフリーマーケットを桑沢祭期間に合わせて開催する予定です。

●同窓生の皆様へ 物品をご提供ください

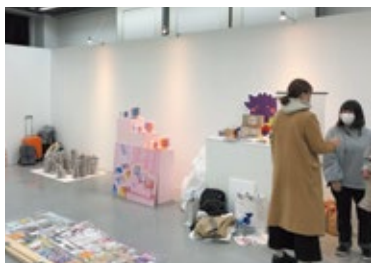
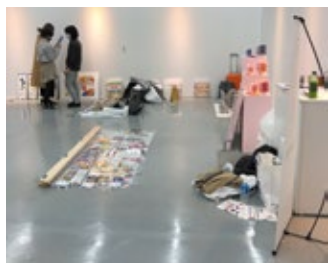
同窓生のご自宅、会社、事務所に眠っている書籍、DVDなどをこのマーケットのためにぜひご提供ください。
(物品の提供についての詳細は夏ごろ同窓会ウェブサイトにて告知いたします)



一昨年のフリーマーケットの様子

卒業生作品展「桑沢2020」及び卒業式が中止に！

2019年度の桑沢卒業生による作品展「桑沢2020」が、2月28日(金)～3月1日(日)の3日間開催される予定でしたが、政府からの新型コロナウイルス感染防止対策の方針などを受け中止となりました。中止が決定されたのはちょうど準備の初日2月26日の事でした。当日学生の展示指導にあっていた森井ユカさん(同窓会理事=1部60L2A)にレポートしてもらいます。



新型コロナウイルスの感染防止対策のため、桑沢では2019年度の卒業生作品展が中止になりました。この記事では森井ゼミから見たそのときの様子をご報告します。

予定されていた会期は2020年2月28日～3月1日。搬入は2日前の2月26日から始まりました。その日は多くの学生が作品を抱えて集まり、9時過ぎには校内の所定の場所にスタンバイし、粛々と展示作業に臨んでいました。図面で検討しても実際に配置してみると印象がまた変わるもので、学生たちは作品の置き方を工夫したり、足りない工具を買いに走ったりと、緊張感漂う毎年見られる光景が繰り返されていました。いつも設営を担当する業者さんも各階を巡回し、様々な調整に追われていましたが、11時頃に学校より一旦作業をストップしてその場で待機するよう校内放送が。まずはプレゼン(会期中、毎日決まった時間に作品について来場者に説明を行うこと)を中止することが通達され、さらに待機を命じられました。2時間ほど全くやる事がなくなり、床にべったり座りながら作品とは全く関係のない他愛ない話をしたり、Uberでハンバーガーを出前したりしてのんきに待っていましたが、13時頃に青山先生より校内放送で中止の旨が放送されました。

1年間準備していた学生たちの落胆は激しく、どうにかならないのかという話も繰り返しましたが、その場の学校の判断は無論覆ることはありません。搬出の段取りを検討してその日は早々に解散となり、しばらく校内には立ち入ることさえできなくなりました。



卒業生作品展の中止を受けて、
学生が自主的にオンラインでの
卒展を企画。
その活動はメディアでも
取り上げられました

ただその後、ちょっと奇跡のようなことが
起きました。学生たちがTwitterに卒
展作品を投稿し始め、それらが卒業生に
拘わらず、またデザイン関係の仕事も拘
わらずたくさんの人たちによって「#桑
沢2020」というハッシュタグにまとめら
れ、膨大な数がネット上に複製され続け
たのです。作品によっては何十万もの注
目を集めた痕跡を残し、これをきっかけ
にマスコミへの露出や企業からの引き合
いも見られるようになり、これまで10年
間ほど卒展に関わった中では類を見ない
ほど注目されることになりました。



卒業式ムービー

新型コロナウイルス感染防止対策の影響
は止まるところを知らず、卒展のみならず
卒業式と入学式も中止になり、インター
ネット上で卒業式が開催されました。

卒業生代表による答辞、講師たちの祝
辞が滞在時間をずらした日程で桑沢にて
収録され、編集されたものが3月末の一定
期間配信されることに（現在はアクセスで
きません）。恒例の浅葉前所長による卓球
のサーブ、また普段は見られない講師たち
の自然な語りもあり、Webのおかげでひ
とつの締めを感じることができました。



桑沢公式サイトでの作品公開



桑沢では学生数を調整しながら改めて作
品撮影などの機会を設け、「令和元年度
卒業生作品集ウェブサイト」を開設しま
した。公開希望者の作品のみになります
が、令和元年度卒業生の集大成である作
品をぜひご覧ください。

www.kds.ac.jp/sotsuten/2020/works/

工藤強勝さん企画監修 「タイポグラフィをめぐる書物の森」展開催

2019年9月2日から10月11日まで東京・神田の竹尾見本帖2階にてグラフィックデザイナー・工藤強勝さん（1部48L3GD）の企画監修による「タイポグラフィをめぐる書物の森」展が開かれました。

これは国際タイポグラフィ協会が主催する世界的なタイポグラフィのカンファレンスATypI（エータイプアイ）の初の日本開催を記念し、「ATypI 2019 TOKYO」サテライト展示として開催されました。

企画監修した工藤さんは、株式会社竹尾より「紙」と「文字・印刷・造本」をテーマ

に展示を依頼され、「私がタイポグラフィの造詣を深めるために手元に置いていたものや活字、写植の会社から記念誌として献本された非売品など300点を超える展示となりました。また、株式会社モリサワより特別展示のウィリアム・モリスの『ケルムスコット・プレス』も加え多彩な展示となりました。」と語っています。

タイポグラフィのこれまでとその未来への橋渡しとなったこの展覧会へは、会期中、平日開催にもかかわらず1,300名を超える来場者がありました。



TAKT PROJECT が 国際アワードで受賞

2019年11月、dezeen*1(英)が主催する、Dezeen Awards*2 2019にて、吉泉聡さん（1部H171B）が代表を務めるデザインスタジオTAKT PROJECTが年間最優秀Emerging designer賞を受賞しました！

- *1 ワールドワイドなデザインシーンを伝える UK 発のデザイン Web マガジン
- *2 Dezeen Awards：建築、インテリアの分野のデザイン活動やデザインスタジオに対して贈られる世界規模のアワード

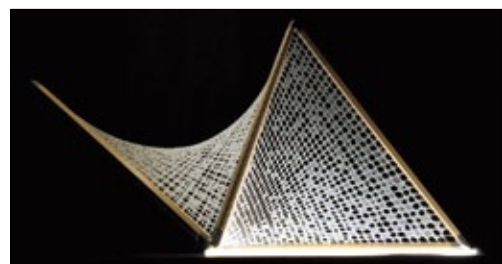


佐藤友佳理さん 交際デザインコンペ A' Design Award で銀賞など受賞

佐藤友佳理さん（2部 H21 VD2A）の3D和紙照明「ひねり／Hineri」が、イタリア・ミラノで行われた国際デザインコンペティションA' Design Award 2019にて、銀賞を受賞しました。

また、2019年11月には「第4回金沢・世界工芸トリエンナーレ」にて3Dオブジェ「うねり／Uneri」が入選しました。

佐藤さんは、桑沢デザイン研究所卒業後、自身が育った手漉き和紙の産地で制作に組み始めました。2012年に名水百選「観音水」の湧く、愛媛県西予市宇和町に工房を設立。和紙インテリア、オーダーメイドのタペストリー・建具などのデザイン・製作を国内外に向けて行っています。



Hineri



Uneri

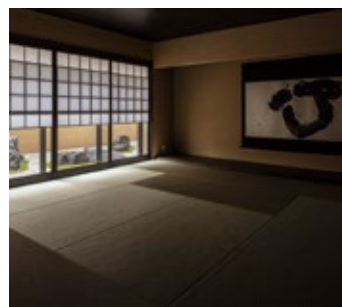


内田デザイン研究所のプロジェクトが世界のデザイン賞を受賞

内田デザイン研究所*1が手掛けた「ENSO ANGO」「FLEUR PAVILIA」が、国際的に権威のあるドイツのデザイン賞 iF デザインアワード2020をはじめ、数々の国際的なデザインアワード*2を受賞しました。

ENSO ANGO (昨年の KDS NEWS でもご紹介)

ENSO ANGO (エンソウ アンゴ) は、2018年10月に京都にオープンしました。京都の中心部の町家等の空き地を再活用した5棟でひとつという分散型ホテルで、「暮らすように旅をする」をイメージし、各棟にはゆったり寛げるラウンジと棟ごとに異なったファシリティがあり、どの棟に泊まっても、それぞれ相互に利用可能な、町を巻き込んだ新しいスタイルのホテルです。

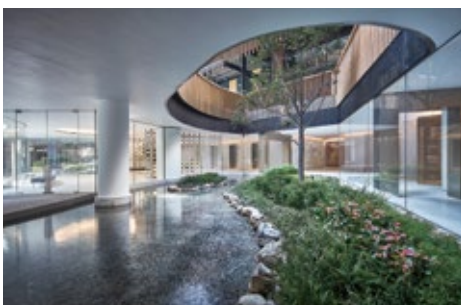
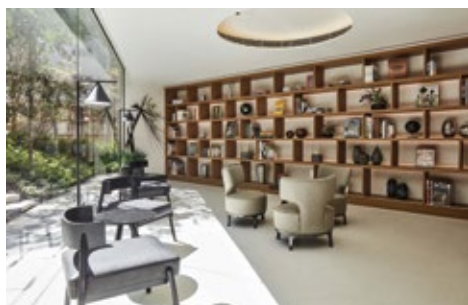


FLEUR PAVILIA

「Fleur Pavilia (フルール・パビリア)」は香港島の高層集合住宅内の3階に位置するパブリックスペースで、住民が自由に使用できる様々な設備(娯楽室、キッズルーム、スポーツ施設、パーティーキッチンなど)があります。

各施設は中庭を囲むように配置され、内田繁の3つの茶室(受庵 行庵 想庵)をイメージする柔らかな格子や壁で区切られ、中庭とつながったような空間が生まれました。

多くの飲食店やショップが連なり喧騒を極める大都会から、一步エントランスをくぐると、ダンシングウォーターの静かな水の揺らぎと水の柔らかな音が住民を出迎え、3階の中庭の光溢れる空間が住民の心を落ち着かせます。



*1 内田デザイン研究所 [故 内田繁さん (1 部 40 L2C) が創設] ディレクション / 長谷部匡、

設計 / 「ENSO ANGO」 稲垣留美 (2 部 H13 SD2) + 成川秀一 + 先崎茂晴 (1 部 H22 SD3)、「FLEUR PAVILIA」 鈴木学 + 高平洋平 (1 部 H22 SD3E)

*2 DFA アジアデザインアワード 2019 受賞 / Sky Design Awards 2019、AHEAD Awards 入選等

埼玉県宮代町進修館 40 周年プレイベント (座談会)に参加してきました 2020 年 1 月 18 日(土)

東武動物公園駅から6、7分歩くと何やら不思議な力を漂わせている建造物と広場が現れました。そこが宮代町進修館でした。「町民がたくさん集まれる、世界のどこにもないものを建てよう」という宮代町初代町長、齋藤甲馬の壮大な構想、まちづくりの思いにふれ、進修館（町民コミュニティセンター）の設計を担当した象設計集団とその仲間たちのダイナミックな創造の過程を垣間みてきました。

進修館は色々な人が参加して造りあげた建築で、ぶどう棚、議場の円卓・椅子、大ホールの緞帳、大ロビーの家具、食器棚に至るまで、進修館の空間を支えるもののすべての設計・制作がなされたそうです。新たなかたちを発想し、試行錯誤した空間は、創造性に溢れ、存在感があるものでした。



桑沢同窓生の故坂本和正さん（1部34L研A）は、主に家具担当としてこの構想に参加。

建築空間の中で、家具は使われるもののだとしても、装飾的におかれるもののだとしても、建築と家具の関係、家具と家具の関係について考えておかなければならない。

家具は建築の中で移動する。それは人の日常の行動の足跡を残像のように残し、配列を変える。家具は単体としても成立しているが、その単体がそれぞれ固有な形を保ちながらも沢山集まって群れをなしている。それらは集合体として捉えることができる。集合体、これは大小の建築が林立する都市をイメージさせる。

「家具は都市」という命題はこのとき提出された。

Team Zoo 方圓館 坂本和正
出典：新建築1981年10月号

当時この事業に携わった行政、建築家、家具職人、植栽家など多くの人々の熱い思いが町民に伝播され、宮代町の原動力になっていると感じました。進修館は開館から40年経った今も町のコミュニティセンターとしての役割を果たし、今や町民の誇りになっていることが理解できました。

改めて都市（まち）の構想がいかに重要なものであるかを認識しました。

記：赤羽なつみ（同窓会理事＝1部49L3PK）



神楽ジェンヌ&マダムの癒し空間 — 同窓生より作品展示スペースのご案内 神楽坂「ココットカフェ」

皆さんに作品展示スペースのご案内です。「コンセプトはリビングルームのようなカフェで、お客様が居心地よく過ごせる空間を演出して下さる作品であればジャンルは問いませんので、随時募集しております。月毎の単位で、その季節に合うテーマ設定となります。こちらのお店での出展に相応しいと判断した作品には出展料は無料です」とのことですので作品の展示をしてみたい方

は相談してみたいかがでしょうか？

cocottecafe' 東京都新宿区津久戸町3-12
Tel.03-3269-2609 増井敦子（1部54D2A）



浅葉克己さんディレクション 「ユーモアてん。／SENCE OF HUMOR」開催

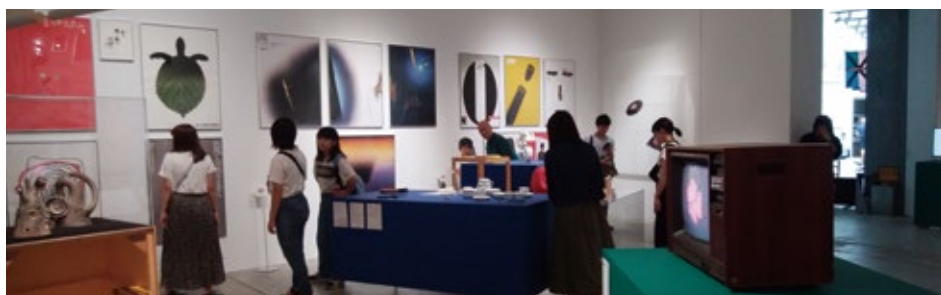
デザイン界を牽引し続けるアートディレクターそして桑沢デザイン研究所前所長の浅葉克己さん(1部34L基A)がディレクションした展覧会「ユーモアてん。／SENCE OF HUMOR」が2019年3月15日から6月30日の会期で、東京・赤坂の東京ミッドタウン内21_21 DESIGN SIGHTにて開催されました。

浅葉克己さんにとって、コミュニケーションにおける最も大切な感性のひとつが「ユーモア」であるといい、会場には国内外から集め、インスピレーションを得てきた資料やオブジェとともに、ユーモアのシンパシーを感じているデザイナーやアーティストの作品が一堂に展示

されました。

来場者は、時代や国を超えたユーモアのかたちと表現を一望することで、日々の営みの中にある見近なユーモアを見つめ直すことになり、そこにあるユーモアの感性こそが、デザインやものづくりにおいて重要なコミュニケーションの本質のひとつであるということが感じられる展示でした。

なお、展示作品のひとつに、2019年の桑沢新人賞を受賞した若林あやめさん(1部H30VD3C)の卒展作品「匠のりんご」が展示されており、浅葉さんの機転とユーモアにびっくりでした。



森井ユカさん個展「Fantastic Garden」

立体造形家、雑貨コレクターなど多彩に活躍する森井ユカさん(1部60L2A)のクレイ造形作品の個展「Fantastic Garden」が、2020年1月東京代官山のGallery子の星で開催。ここでありどこでもない、想像の庭で遊ぶをテーマに、世界中の民話からイメージした生き物たちが展示されました。例えばフランス民話の「ルー・カルコル」は「フランス南西部の海にある洞窟の中にいるドラゴンの一種。カタツムリのようなカラを持ち、触覚には毛が生えており、全体的にドロドロとしている。誰も近付こうとしないが、好奇心に負けてしまい見に来た人間を、器用に動く触覚で捕えて食す。」と解説。カラフルで可愛いユーモアあふれる魅力的な展覧会でした。



出本正彦さん金賞受賞

広島在住のファッションデザイナー出本正彦さん(1部44D3B)の作品「山茶花」が、2020年1月、日本ヴォーグ社が主催する第3回キルトジャパンコンテストB部門(袋もの)で金賞を受賞しました。「裂織をカットして山茶花(さざんか)を表現した」お洒落なバッグは、審査員から「花のモチーフが浮き出てくるようで存在感がある。色の使い方、本体と持ち手のバランスが絶妙。」と評価されました。



今井雅洋さん個展「と・アルトコロ」



グラフィックデザイナー、フォトグラファーとして活躍する今井雅洋さん（1部48 L3GD）の個展「と・アルトコロ」が2020年2月、東京・小伝馬町のJINEN GALLERYで開催されました。

今井さんはグラフィックデザイナーとして仕事をするなか、写真機そのものと撮影する行為に興味を持ち始め、2002年に初の個展を新宿のギャラリー コムニカで開き、写真とグラフィックを融合した作品を発表。これまで南青山のDEE' SHALLや麻布十番ギャラリーなど都内各所で数多く個展を開催しています。

今回の個展について今井さんは、「と・アルトコロの「と」とは、私の日常のなかでの印象的なひとコマを、それがあたかも「偶然」であるかのごとく、見る方にお伝えする一方便なのかもしれません」と言っています。

写真をコンピューターで合成し、工夫を凝らしたオリジナルの技法で和紙にプリントする、自身が発信しているブログ「arte-garecchi」で展開する魅力的な散文詩が見え隠れするミクストメディアとしての作品が数多く展示された印象的な個展でした。



吉岡徳仁さんのガラスの茶室が 国立新美術館に出現

2011年に第54回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展で発表され、2015年に京都の將軍塚青龍殿の大舞台でも披露された吉岡徳仁さん（1部62L研ID）の「ガラスの茶室 - 光庵」が、2019年4月、東京・乃木坂の国立新美術館へやって来ました。

ガラスの茶室があるのは、美術館の展示室ではなく、正面入口横の屋外で、ちょうど建物と向かいあうように設置されています。美術館を背景にすると、まるで茶室がガラスのファサードへ溶け込んで見えるような錯覚に陥ります。

白い円盤の上に置かれた茶室全体を覆う屋根はありませんが晴天の溢れる光を受けて、水面のようなきらめきを生み出していました。朝昼晩の時間、さらには晴や雨の天候によっても、表情を変えていくのではないのでしょうか。

茶室の周囲には、パリのオルセー美術館にもコレクションされたガラスのベンチ、「Water Block」もあわせて展示されています。

この作品は、2021年5月10日まで展示される予定です。



ダ・ヴィンチ没後500年「夢の実現」展

ルネサンスの巨人レオナルド・ダ・ヴィンチは、今から500年ほど前の1519年に亡くなりました。彼は<最後の晩餐>や<モナ・リザ(ラ・ジョコンダ)>という、世界で最も知られた絵画を描いた画家ですが、67年の生涯で残した作品は驚くほど少なく、現存絵画は16点ほどしかありません。しかもその多くは未完成や欠損しており、完全な姿で残っている完成品は4点しかありません。

そこで東京造形大学では、昨年一年ですべての絵画をヴァーチャル復元する作業に挑戦し、その発表展、ダ・ヴィンチ没後500年「夢の実現」展が2020年1月5日から26日まで東京・渋谷の代官山ヒルサイドフォーラムで開催されました。

レオナルドの作品の未着色のものに彩色を施したり、消失部分を科学的根拠に基づいて復元するなどして、完全な状態で全16作品を展示することは世界初の試みです。また完成に至らなかったブロンズ製騎馬像や、構想していた巨大建築物、当時の技術では実現不可能だった工学系発明品なども、縮小模型や3DCGなどによって実現されました。同展ではまた、彼の絵画空間のなかに入り込んだり、彼が考案した機械を動かすVRなども体験でき、それらの多くが、やはり世界で初となります。

「夢の実現」展が目指しているのは、その名の通り、まさに「レオナルドがかつて抱いた夢の一部を、500年後の今、実現させる」ことであり、来場者はその出



来栄えに感心しているのが印象的でした。

なお、1月22日に浅葉克己桑沢デザイン研究所前所長と山際康之東京造形大学学長による「デザイナーとしてのレオナルドを考える」と題した対談イベントが行われました。



障がい者理解に向けたソーシャルアクション 「シブヤフォント」が2019年度グッドデザイン賞を受賞

障がいのある人が描いた文字や絵をもとに桑沢デザイン研究所の学生および障がい者支援施設による共創プログラムがフォントやパターンデータを制作。それを渋谷区公認のパブリックデータとして公開している「シブヤフォント」が2019年度グッドデザイン賞を受賞しました。

この「シブヤフォント」は、桑沢の学生が参加し、制作するまでの教育的な観点や後の展開方法に至るまでデザインの視点が形となっています。併走された教職員の方々と関係者の協働により区民や企業の採用が広がったことで、多様性の理解と「シビックプライド」につながる

ソーシャルアクションになっています。そしてここから、渋谷区全域そして他地域へと方法論が共振していくように持続する形態となるよう期待されています。

受賞の理由として、1.障がい者アートをフォントやパターンにすることで、誰でも気軽に使え、障がいのある人を身近に感じられる。2.障がい者支援施設とデザインを学ぶ学生との交流が、福祉を地域に開き学生の実社会での学びを生み出している。3.渋谷区公認のデータとして区民、企業の活用を広げ、ダイバーシティを推進する渋谷のシンボルとなっている。ということが評価されました。

専門学校桑沢デザイン研究所/株式会社フクフクプラス 磯村歩+ライラ・カセム



井上耕一さん「〈すわる〉を旅する」 展覧会を開催



井上耕一さん（1部36L2A）の展覧会「〈すわる〉を旅する—アジアとアフリカのあの坐り方と低い腰かけ」が、2019年11月16日～12月8日、東京の世田谷文化生活情報センター生活工房で開催されました。

デザインリサーチャーである井上さんは、アジア山間部での旅を続けるうち、彼らがいわゆる西洋的な椅子を必要とせず、両足の裏を地面につけたまま腰を下ろし、両膝を立ててしゃがんだ姿勢でさまざまな動作をし、必要に応じて低い腰掛けを使っていることに気がきます。井上さんはこの名もない姿勢を「あの坐り方」と呼び、人間本来の、古くからある身体の使い方ではないかという推測から、アフリカにも調査に赴きました。

当展ではアジアとアフリカの膨大な写真と約30点の低い腰掛けが展示され、来場者は、歴史的・建築的観点からの座具や、移動・定住社会と椅子との関係も見つめながら、旅するように〈すわる〉を探ることができました。



横森美奈子さん NEW 利休 Bag 展 Vol.17

ファッションデザイナー横森美奈子さん（1部44L2A）の「NEW 利休Bag展 Vol.17」が2019年9月松屋銀座7階遊びのギャラリーにて、山田英幸 仕履展「ポケットにぐい呑みを4」と共に開催されました。「古今東西異文化の様々な布の取り合わせの妙を伝統工芸の利休バッグの形で表現した」という唯一無二の作品たち。全てに物語が感じられる和洋どちらにも不思議に似合うお洒落なBagです。自由でPOPな横森ワールド全開の楽しい展覧会でした。



COYAMA ブックカフェ&ギャラリー コヤマ 開店

奥 真理子さん（1部H21 SD3E）が印刷工場だった築48年の家を改装して本を眺めながらコーヒーをお楽しみいただけるお店「COYAMA ブックカフェ & ギャラリー コヤマ」をつくりました。

コンセプトは、それぞれの「小山」からなる「COYAMA」は本を眺めなが



らコーヒーをお楽しみいただけるお店です。デザインの仕事をしている店主が仕事のヒントとなる本を選んでいますが、その本は生活を豊かにするヒントにも繋がります。それを発見できる場所をつくっていただければと考えているそうです。

また、ギャラリーを併設しており、スタート企画として、2019年6月1日～30日までイラストレーター・藤岡詩織さん（1部H21VD3C）の作品展を行いました。みなさんぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。

COYAMA ブックカフェ&ギャラリー コヤマ
川崎市中原区上丸子山王2-1314
<https://coyama.net/>

黄金伝説 田中ルミ展



田中ルミさん（1部36 L2B）の個展「黄金伝説」が2019年5月に行われました。「黄金」はチョコの包み紙の様子。入院されていたそうで、その間に制作されたとのこと。注意深く観るとご主人の戸村浩先生（1部37 L3ID）の作品もコラージュされています。お二人で元気な姿を見せて下さいました。会場となったアトスペース煌翔（南阿佐ヶ谷）のオーナーも桑沢出身とのこと。

後藤和樹さん Milano Design Week（ミラノサローネ）にて卒業制作を展示

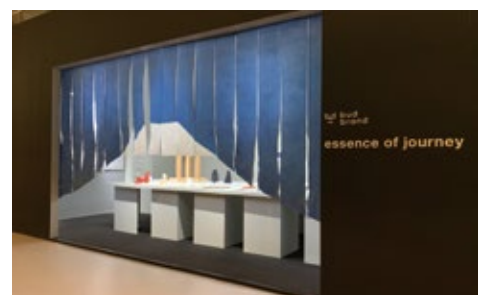


毎年4月に行われる世界最大規模のインテリアデザイン見本市Milano Design Week（ミラノサローネ）。そのメイン会場周辺で行われているSUPER DESIGN SHOWのbud brand 2019にて、後藤和樹さん（1部 H30 PD3D）の卒業制作が展示されました。

bud brandは「つぼみ（bud）+綺麗に咲かせる（brand）」という名のもと、才能溢れる次世代のクリエイター達が日本のデザインを世界へ発信できる場としてMilano Design Weekへの出展を支援しているプロジェクトです。bud brandと

して桑沢の卒業制作が展示されるのは今回が初めてで、bud brandを運営する一般社団法人日本DESIGN BANKは、「これからも桑沢とタッグを組み、若いクリエイターの可能性を、ミラノへ、そして世界へ届けたい」と語っています。

今回選出された作品は、伝統工芸品甲州印伝と、地酒七賢を用いた山梨県の新しい酒器のお土産「包美（Tsutsumi）」。「水本来のたぷんとした手触りを感じてもらうため、酒を柔らかな印伝で包み込んだ作品。最初はパンパンにお酒が詰まっているが、飲んでゆくと酒器自体が



くったりとしてゆく。日本的なビジュアルと、変わった触り心地に、来場された世界の方々の反応も上々でした。

一般社団法人 日本 DESIGN BANK
bud brand 運営事務局
<https://www.bud-brand.com>

和井内京子さん小渕ももさん 二人展 「私の庭に存在するものたち」

2019年5月、東京世田谷区奥沢のギャラリー「パセリセージ」にて、和井内京子さん（1部53L研写真）と小渕ももさん（1部38L3PK）の二人展「私の庭に存在するものたち。」が開催されました。

バッグを主軸にファッション小物やインテリア・オブジェなどを制作し、国内外で活躍する和井内さん。海外で居場所を移しながら長年イラストレーターとして創作

を続けてきた大先輩の小渕さんを、「すごい人生何倍にも生きてる元祖回遊魚女子」と称して大リスpektしているとのこと。

和井内さんが「ガーデン＝私の居場所」というテーマで、「ずーっと私の場所にいてほしい人」である小渕さんを招いたこの展覧会では、お二人の宝物のような作品たちが並び、ゆっくりと優しい時間が流れていました。



伊藤貴之さんのワークショップ 柿渋でつくるアンティークなバラ

「パセリセージ」での二人展の開催中、伊藤貴之さん（2部H04SD2）によるコサージュ製作の1dayレッスンが開かれました。5月はバラの季節。少しアンティークな感じで、まるで本物のバラのような花びらを柿渋を使って表現する技法を学ぶことができました。

伊藤さんは2007年より那須に拠点を移し、オランダの古着や小物を扱うお店TURBOをオープン。並行してコサージュ作家として活動を進行中です。

<http://turbo15.com/turbo/>



第2回 桑沢デザイン研究所同窓会 九州支部展 出品者募集中！

第2回九州支部展の出品者を募集いたします。

2018年に博多で開催された第1回九州支部展では、世代や分野が違っていても同じ桑沢で過ごした仲間ということで何か分かりあえる、繋がりあえるものを感じました。

今回から九州在住者だけでなく、九州出身者や興味をお持ちの同窓生の出品も歓迎いたします。

会期 2020年9月1日(火) から6日(日)
搬入 8月31日(月)
会場 福岡市美術館 市民ギャラリー C,D
内容 絵画・工芸・デザイン等日頃制作されている作品。
映像やパネル等での紹介も可能です。
参加人数にもよりますが、おおよそ一人4m幅の壁面を自由に使えます。
参加費 5,000円
申込み 6月30日迄に九州支部長野田宛にメールを送信してください。
nodahiro1224@gmail.com
問合せ 090-2096-9557
※開催日程につきましては、変更になる可能性があります。



2018年の九州支部展の様子

淡路島在住の山田脩二さんが集大成の写真集を出版予定

「山田脩二『日本村』60年の軌跡」1960年～2020年

山田脩二さん(1部34L研A)が、1960年に桑沢デザイン研究所を修了後60年の軌跡を振り返り、自身の集大成となる写真集を今年夏頃に出版します。

山田さんは桑沢デザイン研究所を修了後、印刷会社勤務を経て、写真家として活躍。造形的な写真を撮り続けるかたわら日本各地を旅して、新旧入りまじった村や街、都市の風景を撮影し続けました。1982年には職業写真家に「終止符宣言」をして、兵庫県淡路島の瓦生産地集落・津井で瓦師(カワラマン)に転身。伝統的ないぶし瓦を現代に活かす作り手として活動しながら、今も魅力的な写真を撮り続けています。また1990から1996年に当研究所の同窓会会長を務めた山田さんは、「桑沢賞」の創設者でもあります。

今回出版する写真集は、昭和、平成、令和を通して、変わりゆく日本の姿を静かに見つめてきた、そのまなざしの軌跡を辿るものです。ぜひご覧ください。



「山田脩二『日本村』60年の軌跡」1960年～2020年

408ページ、モノクロ写真500点余り、予価8,000円、出版予定2020年8月
発売されましたら同窓会ウェブサイトにて告知いたします。

写真の枚数、ちよとも多い。本の重さ、大変に重い。定価高い。
こんな写真集、誰も買ひはくたないわい。
いある人は、今から毎日、100金い毎日、一ツ買ひ物とて積り、
一、100円ずつ、積り立て、100日、続け下さい。(3ヶ月分)
夏の前頃、10,000,-にせせう、是非、買下さい。
大変な写真集、合計一、千、



山田脩二

中四国支部長インタビュー 宮畑周平さん 瀬戸内でじっくりゆったり自分スタイル

瀬戸内海の離島、弓削島^{ゆげしま}で編集や写真、文章執筆などの媒体制作を仕事にしています。桑沢卒業後、建築関係の本などを手がける編集プロダクションに就職し、9年前に独立して島にやってきました。日々、島々が海に溶けあう美しい景色を眺めながら暮らしています。

東京での編集者時代、建築とフィールドが近く、触れる機会が多い都市計画や地域デザインに、自然と興味が出てきました。しかし僕ら媒体制作者や、計画を策定する手助けをするコンサルタント

は、地域に関わっても短い期間だけで、成果物ができると仕事は終わり。それに疑問を抱き、どうせなら自分は現場の最前線で暮らし、地域と関わっていきたいと思うようになりました。

現在は建築のほか、瀬戸内地域の観光や移住政策のための情報発信も手がけています。書籍だけでなく最近ではウェブサイトも。例えば愛媛県今治市の建築を紹介する「今治建築ウェブ」や、地元愛媛県上島町の観光ガイド「かみじまトリップ」などです。

宮畑周平さん
(2部 H19SD2)



現在(2020年4月13日)、世界は新型コロナウイルスの感染拡大で深刻な状況です。大都市の天変地異に対しての脆弱性を、多くの人が体感しているのではないのでしょうか。これをきっかけに、東日本大震災の時と同じく、地方への人口移動が少なからずあるのではないかと思います。桑沢卒のクリエイティブなみなさん。地方のほうがそのスキルを必要としており、デザインの余地も多くて面白いと、僕は実感していますよ。(談)

今治建築WEB

<http://www.oideya.gr.jp/kenchiku/chapter/omishima/index.html>

かみじまトリップ

<https://www.kamijima.info>



今治市伊東豊雄建築ミュージアム(今治市。今治建築ウェブの取材で撮影)



百十四銀行本店(高松市。瀬戸内国際芸術祭関係の取材で撮影)



第27回 桑沢賞表彰式がにぎやかに開催されました

今年で27回目を迎えた桑沢賞の表彰式&パーティーが、2019年5月18日(土)の6時30分より、東京・原宿クエストホールにおいて開催されました。

約370名の参加者をかぞえ、昨年に引き続きイラストレーター & ソラミミストの安齋肇さんの司会によりにぎやかに表彰式が行われました。

八十島博明同窓会会長による開会の挨拶で、「皆さんようこそお越しいただきましてありがとうございます。今回も素晴らしい受賞者をお迎えすることができました。桑沢特別賞の写真家の潮田登久子さんは、お名前は数年前から候補に挙がっておりましたが、土門拳賞に先を越されてしまいましたが今回お迎えすることができました。

もうお一人の桑沢特別賞のイラストレーターのたむらしげるさんは、本来ならば桑沢賞本賞をとっていてもおかしくない方ですが本日お迎えできました。

そして今回、特別設定賞として三宅一生先生に桑沢特別名誉賞をお贈りすることにいたしました。皆さんのなかには、桑沢出身でもなく教鞭をとったわけでもない方が、なぜこの場所にお越しいただくのか、と疑問に思う方もおられるかと思いますが、実はその部分を皆さんに知っていただく機会にしたいということと、



私たちから感謝を申し上げたいということを是非知っていただきたいと思います。

そして、最後になりましたがメインであります桑沢賞本賞の受賞者は、陶芸家の城戸雄介さんです。鹿児島ですばらしい作品を作っていますが、それだけでなく作品の発表の仕方、販売の仕方などモノだけではなくコトを仕掛けていく行動を含め、総合的に評価いたしました。新人賞の皆さんを含め、受賞おめでとうございます。」と語りました。

表彰式で各賞の受賞者には、賞状、トロフィー、副賞(各支部の名産品を旬の時期に発送)、賞金を手渡され、参加者の皆さんより盛んな拍手を受けました。

つぎに、桑沢賞審査員であるアートディレクターの中川直樹氏により桑沢賞審査総評が発表されました。

表彰式のあとは、桑沢前所長の浅葉克己さんの乾杯の音頭によりパーティーが行われました。会場では、参加者の皆さんや受賞者の方々、そして新卒生の皆さんとともに会場のあちこちで会話の花が咲きました。

関係者の皆さん、ボランティアでお手伝いをいただいた桑沢の学生さん、賞状、招待状・Tシャツをデザインしていただいた小淵ももさん、ありがとうございました。

桑沢賞2019 特製賞状/スタッフTシャツ

小淵 もも さん (1部 38L3PK) (2018年桑沢スピリット賞受賞)



招待状、Tシャツ、表彰状と一貫して木版画をモチーフに使用しました。表彰状は、上製本(じょうせいぼん)のイメージで作成しました。表紙には、新たに手摺りした木版画を貼り込み、それを開くと活字で組まれた表彰文が現れます。イラストレーター、造形作家として手につくる仕事にこだわりました。



桑沢賞

城戸 雄介さん

(1部 H13PD3D)

ONE KILN 代表/陶器デザイナー



1980年、鹿児島県生まれ。2002年、桑沢デザイン研究所プロダクトデザイン科卒業。デザイン事務所に勤務後、有田焼の窯元などを経て、2008年、陶磁器ブランド「ONE KILN (ワン キルン)」を鹿児島市に設立。「器」作りを通して、それを共にする家族や仲間との大切な一時に寄り添っていきたいという思いの「THE SUN TO A TABLE: 食卓に太陽を」を理念に、日々作陶に励みながら、個展開催のほか、ショップやレストランの別注などを数多く手掛けている。

「メイドイン鹿児島」にもこだわり、桜島の火山灰に着目し、それを調合した独自の釉薬を用いて作陶した「ASH (アッシュ)」シリーズや、薩摩半島の坊津(ぼうのつ)の土を採取するところから手掛け、焼き方によって色味や質感を変える「CULTIVATE (カルチベイト)」など、地元ならではの素材を活かした作品を発表。

ONE KILNの理念に共感した様々なクリエイターと共に、鹿児島の食と文化を伝える食事会「TABLEs」を定期的に開催しており、2014年にはサンフランシスコでも開催、地元の人達から好評を博した。

2016年、デンマークのデザインアートスタジオ「ザ・イノウエブラザーズ」とパリを拠点に活動するフランス人アーティスト、ジュリアン・コロニエとともに「Made in Kagoshima」プロジェクトを始動。フレグランスブランド、Diptyque (ディプティック) のコレクションに選ばれるなど、国内はもとより海外にも鹿児島の魅力を発信している。



受賞のことば

先ほど八十島会長より紹介が飛ばされたとき、本当に受賞したのかなとドキドキしました。(笑) このような賞をいただきありがとうございます。そして、準備して下さった同窓会の皆様に感謝いたします。

私は、桑沢には補欠で合格しました。鹿児島からデザインのことも何もわからないまま上京して、日々課題をこなしながら多くの仲間と知り合うことができました。

その中で、手を動かして何かを作ることが自分がやりたいことだと気づき、卒業後は陶芸の道を志しました。

桑沢とは違うジャンルだと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、自分で陶器ブランドを立ち上げるとき、桑沢で学んだことや出会った友人たちが大きな財産になりました。

これからもこの財産とともに、故郷の鹿児島から社会貢献できるような器づくりに励んでいきたいと思っています。

なお、ワンキルンのグラフィックは、私と同期の齊藤綾君が担当してくれています。彼と一緒にとれた賞だと思っています。ちなみに彼も補欠入学です。(笑)

本日は本当にありがとうございました。

桑沢賞 審査総評

中川 直樹氏

アートディレクター



毎年、桑沢賞を審査するとき当然のことながら作品の独自性、審美性、将来性そして過去の受賞歴などを対象としてその中から審査委員で選ぶわけです。

それに対して桑澤洋子先生の「デザインとは個々の問題ではなく、周囲の問題であり社会の問題である」の言葉を照らし合わせ、デザインの問題を知的とともに美的に解決しているかを加味し、さらに時代を反映したワードやトレンドを含めたくて審査しています。

今回は審査委員の中から「SDGs」という言葉が出てきました。2015年に国連で提唱された言葉で、「持続可能な開発目標」と訳されますが、メインの提唱に「世界の誰一人も取り残さない社会づくり」があり、2020年オ

リンピック・パラリンピックの推進にも採用されました。

この言葉を勘案し審査した結果、城戸雄介さんを選考いたしました。プロダクトだけではなく、その作品が社会にどう影響をおよぼしているかが評価の対象となりました。

2008年にワンキルンを設立して10年の若いブランドですが、将来性もあり、「TABLEs」という活動を通して地元の写真家、クリエイター、野菜農家などを中心として城戸さんの食器を用いた食事会、発表会などを行うことやサンフランシスコやデンマークでの活動へとつながっていったことや、鹿児島で持続可能な消費と生産のパターンを確立したことも評価され、今回の受賞となりました。



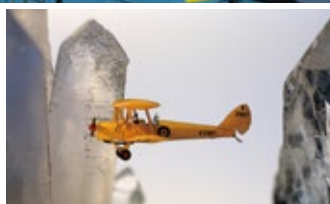
桑沢特別賞

たむらしげるさん

(2部 44PK)
イラストレーター／絵本作家

1949年、東京都生まれ。1968年、上田パッケージ研究所勤務。1970年、桑沢デザイン研究所 二部パッケージデザインコース修了。1972年、トッパンアイデアセンターに勤務。1976年、絵本「ありとすいか」を出版と同時に退社。

イラストレーター、絵本作家の道に進み、1990年代には映像作家としても作品を発表。主な作品集として、「ファンタスマゴリア」、「水晶山脈」、「夢の旅」など、絵本作品として、「かたつむりタクシー」、「よるのおと」、「ダーナ」など、映像作品として、「銀河の魚(うお)」、「クジラの跳躍」など、漫画作品集として、「結晶星(けっしょうせい)」、「ファンタスマゴリア デイズ」など、多数の作品がある。主な受賞歴として1991年、「メタフィジカル・ナイツ」が、第40回小学館児童出版文化賞。1993年、「銀河の魚(うお)」が、毎日映画コンクール 大藤信郎賞、1993年、Montreux(モントルー) International Electronic Cinema Festival 特別賞。1995年、「Amusement Planet PHANTASMAGORIA(ファンタスマゴリア)」が、第1回AMD アワード・グランプリ 郵政大臣賞。1998年、「クジラの跳躍」が、第2回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞。2018年、「よるのおと」が第65回産経児童出版文化賞大賞。



受賞のことは

素敵な賞をいただき、光栄に思います。子どもの頃から、絵を描きながら、物語を作るのが、好きでした。良く言えば絵を描くのが得意。悪く言えば、絵を描くことしかできない。画家になりたいとは思いませんでしたが、このたった一つの取り柄にしがみついていたら、今の自分になっていました。傾いた床に転がったビー玉みたいです。今回の受賞は「もっと転がれるよ」と、背中を弾かれた気分です。転がれるところまで、転がってみたいと思っています。ありがとうございました。

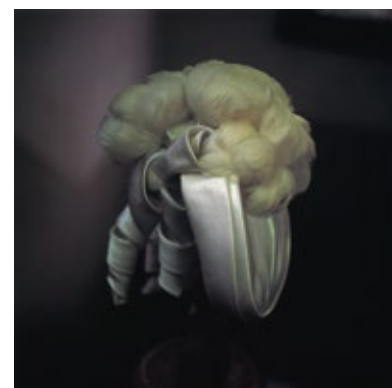


桑沢特別賞

潮田 登久子さん

(1部 38L3 写真) 写真家

1940年、東京都生まれ。1963年、桑沢デザイン研究所リビングデザイン研究科写真専攻卒業。第4回桑沢特別賞受賞者で写真家の大辻清司氏の指導を受け、写真家の道に進む。1966年から1978年まで桑沢デザイン研究所 および東京造形大学で、写真の講師を務める。また1975年頃よりフリーランスの写真家として活動を始める。主な作品として、様々な家庭の冷蔵庫を撮影した「冷蔵庫(ICE BOX)」、帽子作家 香山まり子氏の帽子を撮った「HATS」、みず書房解体前を撮影した「みず書房旧社屋」、恩師である大辻清司氏のアトリエを撮影した「先生のアトリエ」、「本の景色」などがある。主な受賞歴として、2018年、「本の景色 BIBLIOTHECA(ビブリオテカ)」で、第37回土門拳賞および、第34回東川賞 国内作家賞。同年、日本写真協会 作家賞を受賞している。



受賞のことは

桑沢特別賞という思いがけない栄誉を授かりました。感謝申し上げます。

昨年の夏、私は北海道の東川町という町の「写真の町・東川町フォトフェスタ」に出席しました折り、旭川に住んでおられる、かつて桑沢の基礎造形の先生だった、矢野目鋼(やのめこう)先生にお会いすることが出来ました。55年ぶりの再会です。先生は88歳になっておられました。

懐かしい昔話の後、先生は「あの一、これはボクが持っていてもしようがないから」と、つぶやきました。小さな布袋の中から木のかたまりが5つころがり出てきました。「あっ、ハンドスカルプチャー!」と、私は思わず声をあげてしまいました。

まるで旧友に出会ったような気持ちになって、美しい木のかたまりを代わる代わる撫で回していると、

桑沢に入って間もない頃の、ハンドスカルプチャーの授業風景がよみがえってきました。無表情な木のかたまりを削り、ヤスリをかけて磨き上げて、触り心地の良い美しい形に仕上げていくのに、四苦八苦しているデザイナーのタマゴたちを、静かに見守る先生の佇まい、そして、教室の外に広がっている渋谷の街の様子までが、鮮やかに思い出されました。

帰京後、桑沢でハンドスカルプチャーの授業が今も続いていることを知りました。5つの木のかたまりは、早速、桑沢へ届けました。

桑沢デザイン研究所で写真を通して学んだことは、今の私の原点だったことに改めて気づきました。

私がこの場に立つことの意味は、私なりに生きてきたことへのご褒美だと思って、今日ここに伺いました。ありがとうございました。



桑沢特別名誉賞
三宅 一生氏

1970年三宅デザイン事務所を設立。71年NY、73年からはバリでコレクションを発表。当初から一貫し「一枚の布」という考え方を基本に発想し、展開する。革新でありながら、常に時代と生活に寄り添う、社会性あるものづくりはますます広がりを見せている。

1960年、当時多摩美術大学図案科に在学中だった三宅氏は、日本で初めて開催された世界デザイン会議の事務局へ、衣服デザインの分野が含まれていないのはなぜか、と疑問を書き送り、質問状と返答は会議会報に掲載され反響を呼んだ。三宅氏のこの学生時代のエピソードはよく知られている。
また国際的に活躍した桑沢デザイン研究所の同窓生で、インテリアデザイナーの倉俣史朗氏に、1970～80年代のISSEY MIYAKEのブティックの空間デザインを依頼。一方では、倉俣氏の作品のアーカイブも行なっている。さらにデザイン事務所の中で、スタッフと共に研究開発しながら、次の人材を育てることに情熱を注いでいる。三宅氏の活動は、ジャンルを超えた創作と合わせ、ドイツ・パウハウスの精神に影響を受け本学を創設された桑澤洋子先生の理念と深く通じるものがある。

桑沢デザイン研究所の数多くの同窓生を育成し、滝沢直己さん（第7回）、藤田恭一さん（第8回）、真田岳彦さん（第9回）、吉岡徳仁さん（第9回）の4名が桑沢賞本賞を受賞している。

受賞のことば

このような、僕から見たら感慨深い賞をいただきまして本当にありがとうございました。感無量です。この賞は特別にいただいたものと思っています。

個人的なことですが、僕が高校生の頃、桑澤洋子先生が色々なジャンルの先生方とともに新しいデザイン学校を立ち上げた時、行ってみようと思いましたが、その頃はまだ進路がはっきりしていなかったこともあり、多摩美に入学しました。

1960年に日本で最初の世界デザイン会議が開かれましたが、そのなかに衣服デザイン部門が入っておらず事務局へ手紙を書き、そして実現したことで、これはやりがいのある仕事だと思いました。

そのころからファッションにのめり込み、無手勝流にやってきたがなかなか認められなかったのを思い出します。

本日の受賞者の皆さんの仕事を見て、仕事や勉強の仕方で逆に難しいことをやるのがこれからの面白い仕事に繋がっていく事だと思いました。今は、便利な時代です。情報に振り回されず実験できる人生を送っていただきたいと思います。

僕は賞というものになじみがなく、はじめは受けることをためらいましたが受けてよかったとしみじみ思っています。桑沢同窓生の一員になった気持ちです。ありがとうございました。

桑沢新人賞 卒業生作品展において、優秀な作品を発表した学生に対して贈られます。



寺川 朋恵さん
(3A 天宅正ゼミ)



作品名「じゃばら日本昔話」



堀口 智愛さん
(3B 天宅正ゼミ)



作品名「宮崎郷土料理 めしげ」



若林 あやめさん
(3C 浅葉克己ゼミ)



作品名「匠のりんご」



チャンチェン ミランドリナーさん
(3D 坂本敏昭ゼミ)



作品名「+FUN・SteamXpress」



田口 薫さん
(3E Keiko+Manabuゼミ)



作品名「万葉巡り」



南雲 千尋さん
(3F 藤田恭一ゼミ)



作品名「undecades」



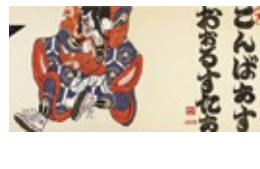
高橋 舞さん
(3F 真田岳彦ゼミ)



作品名「Asyl / 自由区域」



岡本 鈴子さん
(VD2A)



作品名「CONVERSE ALL STAR」



天本 楓さん
(VD2A)



作品名「Pun&Rhyme Experiment / 駄洒落と韻」



那須 夕加さん
(VD2A)





「今昔百鬼拾遺 天狗」
京極夏彦 (1部57L2B)
新潮社
定価：767円 (税込)



「HEAVEN」
中村桃子 (1部H24VD3A)
BOOTLEG
定価：2,500円 (税別)



「今昔百鬼拾遺 河童」
京極夏彦 (1部57L2B)
新潮社
定価：836円 (税込)



「地獄の楽しみ方 17歳の特別教室」
京極夏彦 (1部57L2B)
講談社
定価：1,320円 (税込)



「書楼吊堂 炎昼」
京極夏彦 (1部57L2B)
集英社
定価：1,078円 (税込)



「むかし話ですよ・弐(2)」
五味太郎 (2部42PDID)
方丈社
定価：1,600円 (税別)



「きみののぞみはなんですか？」
五味太郎 (2部42PDID)
アノニマ・スタジオ
定価：1,600円 (税別)



「とりあえず ごめんなさい」
五味太郎 (2部42PDID)
絵本館
定価：1,300円 (税別)



「かたちのなまえ」
濱愛子 (2部H15VD2A)
玄光社
定価：2,500円 (税別)



「銀幕(スクリーン)の中のキリスト教」
服部弘一郎 (2部H15VD2A)
キリスト新聞社
定価：1,700円 (税別)



「月イチ台北どローカル日記」
森井ユカ (1部60L2A)
集英社
定価：1,300円 (税別)



「にんにくの料理」
有元葉子 (1部37L2P)
東京書籍
定価：1,600円 (税別)



「有元葉子
油揚げ、豆腐、こんにゃく」
有元葉子 (1部37L2P)
家の光協会
定価：1,600円 (税別)



「有元葉子
この2皿さえあれば」
有元葉子 (1部37L2P)
集英社
定価：1,800円 (税別)



「有元葉子の料理教室3 秋冬レシピ」
有元葉子 (1部37L2P)
KADOKAWA
定価：1,980円 (税別)



「死んだかいぞく」
下田昌克 (1部63L3GD)
ポプラ社
定価：1,400円 (税別)

受賞のお知らせ

- 大谷 陽一郎 (2部 H26VD2A) ライオン：主催 NONIO ART WAVE AWARD 2020 グラフィック・イラストレーション部門 グランプリ 対象作品：雨
- 松廣 未奈 (1部 H10L 研 ID) iF DESIGN AWARD 2020 対象作品：「Origami Art Drink Package」
- 浦田 孝典 (1部 H17L2C イ住) iF DESIGN AWARD 2020 対象作品：「ARAKAWAGRIP MUSEUM」
- 高田 唯 (2部 H14VD2A) 東京タイプディレクターズクラブ：主催 TDC 賞 対象作品：「一花一日：高田唯北京展」ポスター
- 吉泉 聡 (1部 H17 1B) TAKT PROJECT / dezeen (英) 主催 Dezeen Award 2019：Emerging designer of the year 2019 年間最優秀賞
- 三谷 柚衣 (総合デザイン科 ビジュアルデザイン専攻 3年 在学生) ペーターズギャラリーコンペ 2019 鈴木成一賞
- 佐藤 友佳理 (2部 H21VD2A) 国際デザインコンペティション A'Design Awards 2019 SILVER 受賞対象作品：craft and digital fabrication
第4回金沢・世界工芸トリエンナーレ「越境する工芸」入選 対象作品：「うねり／Uneri」
- 城尾 裕介 (1部 H24VD3C) 月刊『ブレン』：主催 動画コンテスト『BOVA』 審査員特別賞対象作品：JUICE PAINT GRAFFITI
- 張 于美恵 (1部 H28VD3B) 月刊『ブレン』：主催 動画コンテスト『BOVA』 協賛企業賞 対象作品：カンロ - やさしいは、あまい。あまいは、しあわせ。
- 佐々木 苑子 (2部 38VDB) 第66回日本伝統工芸展 入選 対象作品：紬織着物「碧空」
- 澁屋 史明 (1部 H04L 研 GD) 「第104回二科展」のデザイン部、課題部門 特選賞対象作品：失われゆく自然 (動物)
- 古寺 美由希 (総合デザイン科 ビジュアルデザイン専攻 2年 在学生：受賞時は1年生)
ビビビット社：主催『ViViViT 新人賞』 12月大賞受賞 対象作品：プロウンの積木

2019年からの個展・エキシビジョンMEMO ●同窓会に連絡があったものの掲載いたしました。ご協力ありがとうございました。次回のニュースでもお待ちしております。

「ユーモアてん。／SENSE OF HUMOR」	3月15日～6月30日	東京・赤坂 21_21 DESIGN SIGHT	浅葉克己 (1部 34L 基 A)、 若林あやめ (1部 H30VD3C) ほか
工芸・Kôgei の創造ー人間国宝展ー	4月5日～21日	東京・銀座 和光本館 6F 和光ホール	佐々木苑子 (2部 38VDB) ほか
グラフィックトライアル 2019 -Exciting-	4月13日～7月15日	東京・文京区小石川 印刷博物館 P&P ギャラリー	高田 唯 (2部 H14VD2A) ほか
「自生するデザイン by TAKT PROJECT / we+ / YOY」	4月17日～5月13日	東京・銀座 松屋銀座 7F デザインギャラリー 1953	TAKT PROJECT / 吉泉 聡 (1部 H17 1B) ほか
柳下季器 作陶展	4月24日～4月30日	東京・銀座 松屋銀座 7F 遊びのギャラリー	柳下季器 (1部 63L2C イ住)
Sense of color ー色の触感ー	5月12日～19日	東京・六本木 AXISGallery 「真田塾」	眞田岳彦 (1部 59D 研 C)
Rumi Tanaka Exhibition 黄金伝説ー田中ルミ展	5月15日～24日	東京・目黒 アートスペース煌翔	田中ルミ (1部 36L2B)
「十三人の山と谷」ジャパラ絵本展	5月17日～26日	東京・銀座 教文館 4階 エインカレムギャラリー	永田智子 (1部 55L2A) ほか
生平桜子展 ÉLÉGANCE・GRIS	5月17日～6月4日	福岡・薬院 PATINA	生平桜子 (1部 H26VD3C)
長坂大山游刻展	5月18日～6月2日	石川県・金沢 21世紀美術館市民ギャラリー B 室	ビショップ康史 (1部 48L3ID)
倉俣史朗 小展示	5月25日～6月9日	大阪・中津 Nii Fine Arts	倉俣史朗 (1部 31LA)
永岡真依個展 一枚の紙と折り 手から生み出す創造	5月30日～6月2日	東京・六本木 六本木スペース ビリオン	永岡真依 (1部 H29PD3D)
林まさのり フェルトワーク展	5月31日～6月8日	東京・六本木 キャンパスギャラリー自由が丘	林まさのり (1部 47L2A)
HELLO MEXICO	5月31日～6月16日	東京・上石神井 東京おかつぱちゃんハウス内	オカタオカ (2部 H22VD2B)
藤岡詩織 個展「coyama」	6月1日～30日	神奈川・川崎 COYAMA ブックカフェ&ギャラリー コヤマ	藤岡詩織 (1部 H21VD3C)
「自生するデザインの内側」	6月11日～16日	東京・渋谷ヒカリエ 8F Creative Lounge MOV	TAKT PROJECT = 吉泉 聡 (1部 H171B)、 we+, YOY
竹尾見本帖 at Itoya「PERSONAL PAPER FILE」	6月12日～7月30日	東京・銀座 伊東屋 (G.Itoya) 7F イベントスペース	城尾裕介 (1部 H24VD3C) ほか
神崎遥個展「ON THE WAY BACK HOME」	6月14日～27日	大阪・梅田 DMOARTS	神崎 遥 (2部 VD2A)
「2019 ARTOY 展」	6月18日～23日	東京・銀座メルサ 8F 東京銀座画廊・美術館	花島 平 (1部 49 L3ID)、 原 千夏 (2部 H01 PD2) ほか
山崎若菜個展「ZONE」	6月27日～7月6日	東京・表参道 SPACE YU	山崎若菜 (1部 H18 L系 3B)
「POSTERS」	6月28日～8月18日	東京・白金 OUR FAVOURITE SHOP 内 OFS gallery	浅葉克己 (1部 34L 基 A) ほか
柿崎えま展「12cm Life」	7月1日～6日	東京・北青山 ギャラリーハウス MAYA	柿崎えま (= 恵麻・2部 63VD2A)
日・韓交流展 SEED	7月11日～17日	東京・四谷 韓国文化院ギャラリー MI	檜山永次 (2部 45PK) ほか
「虫展ーデザインのお手本ー」	7月15日～11月4日	東京・赤坂 21_21 DESIGN SIGHT	TAKT PROJECT = 吉泉 聡 (1部 H17 1B) ほか
element II A exhibition	7月19日～21日	東京・渋谷 桑沢デザイン研究所 1F ホール	1部スペースデザイン専攻 2年
星の集う場所 Where the stars gath	7月20日～26日	東京・神宮前 デザインフェスタギャラリー	会田 千里 (= 川原 / 1部 H25FD3F)
Hiraparr Wilson Solo Exhibition「POWDER」	7月20日～8月4日	東京・西麻布 CALM & PUNK GALLERY	ヒラパー・ウィルソン (2部 H26VD2B)
4space	8月2日～4日	東京・青山 Gallery Triplet	京坂 紘子 (2部 VD 在籍中) ほか
写真展「ding-dong」	8月5日～11日	東京・南青山 atelier samac	清田千尋 (1部 H25SD3E)
THE LIBRARY 2019 ーExhibition of the Book Artー	8月7日～17日	東京・神宮前 TOKAI Art Space	本田理恵 (1部 H20VD3C)
競技用国産カヌー開発 へ水走プロジェクトへ	8月19日	東京・虎ノ門 文部科学省 エントランス	雑賀吉人 (2部 H19VD2A)
中村桃子展「HEAVEN」	8月23日～9月8日	東京・新宿 BOOTLEG GALLERY	中村桃子 (1部 H24VD3A)
タイグラフィをめぐる書物の森	9月2日～10月11日	東京・神田 竹尾見本帳本店	監修＝工藤強勝 (1部 48L3GD)
横森美奈子の NEW 利休 Bag 展 Vol.17	9月4日～10日	東京・銀座 松屋銀座 7F 遊びのギャラリー	横森美奈子 (1部 44L2A)
第104回二科展	9月4日～16日	東京・六本木 国立新美術館	澁屋史明 (1部 H04L 研 GD)
みさかほ穂個展「心電図」	9月13日～18日	東京・新宿 新宿眼科画廊	みさか ほ穂 (2部 H24VD)
空色と水色／風を眺める	9月13日～28日	東京・南青山 hpgpr GALLERY TOKYO	鈴木一成 (1部 H06L 研写真)
横山雄「Frameworks」	9月21日～10月6日	東京・中目黒 dessin デッサン	横山雄 (1部 H21VD3A)

緑川敏夫展 WORKS 2016-19	9月22日～28日	東京・銀座 ゆう画廊	緑川敏夫 (1部 42L2C)
伊豆見香苗・チャンミー 2人展『たのしい生活』	10月3日～13日	東京・阿佐ヶ谷 VOID	チャンミー (フナカワ=1部 H27VD3C) + 伊豆見香苗
次の日展	10月4日～6日	東京・神宮前 デザインフェスタギャラリー EAST102	RYOAOI、高澤愛菜、タグチカオル、ヒサナガ、船川夢未、吉田未歩 (いずれも1部 H30SD3E)
高杉尚子個展「世界のおはなし」	10月25日～30日	東京・神宮前 OPAgallery	高杉尚子 (1部 H08L2B)
羽原肅郎 展「色 color の形 form と季節 season」	11月1日～23日	東京・恵比寿 東塔堂 Totodo	羽原肅郎 (1部 32L 研)
グループ展「patio-lights」	11月2日、3日	神奈川・横浜市南区 patio-labo	寺田 忍 (1部 H9L 研 PD) ほか
くすむる」を旅するーアジアとアフリカの、あの坐り方と低い腰かけ	11月16日～12月8日	東京・三軒茶屋 世田谷文化生活情報センター「生活工房」	井上耕一 (1部 36 L2A) ほか
村西恵津作品展「Colors・カラーズ」	11月17日～30日	東京・銀座 K.Itoya	村西恵津 (1部 55L2B)
未来と芸術展: AI、ロボット、都市、生命人は明日どう生きるのか	11月19日～2020年3月29日	東京・六本木 森美術館	TAKT PROJECT = 吉泉 聡 (1部 H17 1B) ほか
西尾健史「OMNIBUS 什器」	11月29日～12月21日	東京・渋谷 (PLACE)	西尾健史 (2部 H19SD2)
生平桜子 個展「兆し」	12月6日～15日	京都市中京区丸太町 木と根 分室 gallery LAKEWALL	生平桜子 (1部 H26VD3C)
篠崎三朗展「天使たちのクリスマス」	12月16日～24日	東京・北青山 ギャラリーハウス MAYA	篠崎三朗 (1部 37L3GD)
小田島等 木版画展 『Wild Still Life laser-cut woodblock prints』	12月24日～2020年1月5日	東京・杉並区阿佐ヶ谷 VOID ヴォイド	小田島 等 (2部 91VD1B)
「茶の湯とデザイナーたち」	12月27日～2020年1月27日	東京・銀座 松屋銀座 7F デザインギャラリー 1953	浅葉克己 (1部 34L 基 A)、内田繁 (1部 40L2C)、長友啓典 (1部 38L3GD) ほか
2020 年			
ダ・ヴィンチ没後 500 年「夢の実現」展	2020年1月5日～26日	東京・渋谷 代官山ヒルサイドフォーラム	桑沢学園、浅葉克己 (1部 34L 基 A) ほか
布博 in 東京 vol.13 Week1.「刺繍に恋して」	1月17日～19日	東京・町田 町田パリオ	星 実樹 (1部 H23VD3A) ほか
『Rhythms - その向こうに - '20』	1月20日～25日	東京・中央区京橋 ギャラリー檜	寺田 忍 (1部 H9L 研 PD) ほか
森井ユカ個展「Fantastic Garden」	1月21日～26日	東京・代官山 Gallery 子の星	森井ユカ (1部 60L2A)
韓日現代美術交流展	2月6日～18日	東京・四谷 駐日韓国大使館・韓国文化院 1階ギャラリー MI	村西 恵津 (1部 55L2B)
ペーターズギャラリーコンペ 2019 受賞作品展	2月7日～19日	東京・原宿 ペーターズギャラリー	三谷柚衣 (1部 2019VD3: 展覧会開催時は在学学生) ほか
林青那「CARTA」	2月7日～24日	東京・中目黒 dessin デッサン	林青那 (1部 H21VD3B)
林青那「FOTO」	2月7日～24日	東京・恵比寿 東塔堂 Totodo	林青那 (1部 H21VD3B)
今井雅洋 個展「と・アルトコロ」	2月11日～16日	東京・小伝馬町 JINEN GALLERY	今井雅洋 (1部 48L3GD)
梅村 誠 個展「未来的機械細胞芸術展」	2月27日～3月3日	東京・銀座 Gallery 銀座一丁目	梅村 誠 (2部 H20 VD2A)
齋藤さだむ写真展 「光の景・ニッ島 茨城県北茨城市磯原町」	2月27日～3月26日	茨城・北茨城市 茨城県天心記念五浦美術館	齋藤さだむ (1部 46L3 写真)
遠藤 享 展	3月2日～14日	東京・銀座 養清堂画廊	遠藤 享 (1部 36L3GD)
和・綿・更紗展 2020 中野史郎×白井仁	3月3日～8日	東京・新御徒町 ギャラリースペースしあん	白井仁 (1部 H11D 研 C) ほか
工芸・Kôgei の創造ー人間国宝展ー	4月2日～14日	東京・銀座 和光本館 6F 和光ホール	佐々木苑子 (2部 38VDB) ほか
たのしいグループ展「ニューコンポジション 2」	4月3日～12日	WEB (ウェブ) 開催	倉田 鏡榮 (1部 62D2B) ほか

■ 計 報

● 道吉 剛さん (1部33L研B) 2019年9月10日逝去 享年86

1933年岡山県生まれ。1957年桑沢デザイン研究所入学。在学中に「現代建築を動かすもの」で日宣美展入選。卒業後、季刊グラフィックデザイン編集部勤務。1964年の東京オリンピック組織委員会・デザイン室の運営、1970年の大阪万博・デザイン担当副参事など

を務める。多くのブックデザインに携わり「現代デザイン理論のエッセンス」「サムエルソン経済学」(通産大臣賞受賞) ほか手がけたブックデザインは8000点を超える。1971年から99年までの28年間、桑沢でグラフィック、タイポグラフィの指導にあたり多くの後進を育てた。1985年、日本図書設計協会設立に参加し、初代の代表に就任した。2016年、第24回桑沢賞において桑沢特別賞受賞。

同窓会事務局より

● 今回も同窓会ニュースの原稿を多くの方からいただきました。ありがとうございます。仕事の報告、個展の案内・報告、コラム、受賞、出版情報などお知らせください。
またデザイン関連以外のこと(例えば、ボランティア活動、自慢のコレクション、ショップ経営など)や若い人の活躍、地方のニュースなども大歓迎です。原稿をお待ちしております。次号(188号)は2021年4月中旬に発行の予定です。(原稿締切2021年2月末)

● 同窓会名簿の充実のため、住所移転や同窓会ニュースの送付先変更などありましたら必ず同窓会事務局までご連絡ください。
また、Eメールのアドレスも差し支えなければお知らせください。どちらも同窓会までEメールまたはファックスにてご連絡をお願いいたします。
● みなさんのお知り合いで同窓会ニュースが届いていない同窓生がいたら同窓会までご連絡くださいますようご協力をお願いいたします。
また、お亡くなりになられた同窓生に依然として同窓会からのお知らせや同窓会ニュースが届けられている場合は、ご家族の方から事務局へご一報戴ければ、配送停止の手続きをいたします。

KDS NEWS dosokai 2020 no.187 2020年5月1日発行	桑沢デザイン研究所同窓会 150-0041 東京都渋谷区神南1-4-17 TEL 03-3462-4029 FAX 03-3462-4090 ✉ info@kds-doso.net 🌐 www.kds-doso.net/ 📘 www.facebook.com/kdsdoso 📠 kuwasawadoso		発行 編集 デザイン 撮影 校閲 印刷	桑沢デザイン研究所同窓会 大槻 高康 (1部 49 L3GD) 田辺 千晶 (1部 56 L2C イ住) GRID + 矢島 裕丈 (1部 H18 L3B) 吉田 仁 (1部 45 L3 写真) / 他 本田 理恵 (1部 H20 VD3C) 株式会社 アトミ